

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-782-031
(インターネットホームページURL)	<a href="http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html">http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html</a>
公告の方法	当社のホームページに掲載する <a href="http://www.ferrotec.co.jp/">http://www.ferrotec.co.jp/</a>
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 ジャスダック市場

・株主に関する住所変更等のお届出およびご照会について  
証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

# FerroTec

株式会社 フェローテック

〒103-0027 東京都中央区日本橋2-3-4  
日本橋プラザビル  
TEL 03-3281-8808 FAX 03-3281-8848  
URL <http://www.ferrotec.co.jp/>

**UD  
FONT** 見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。



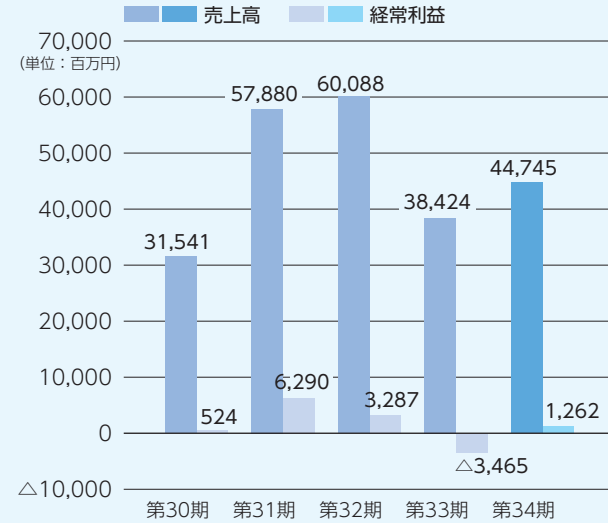
第34期 決算報告

# BUSINESS REPORT

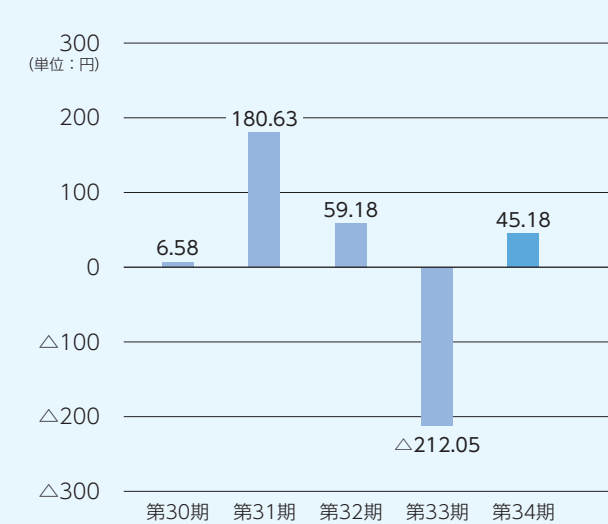
平成25年4月1日▶平成26年3月31日  
証券コード：6890

FerroTec  
株式会社 フェローテック

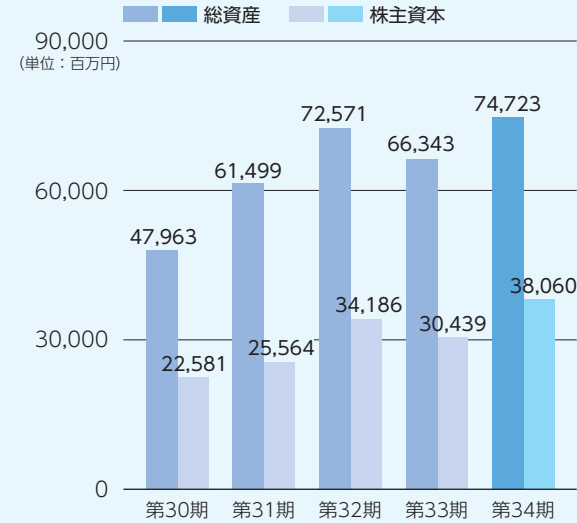
売上高／経常利益



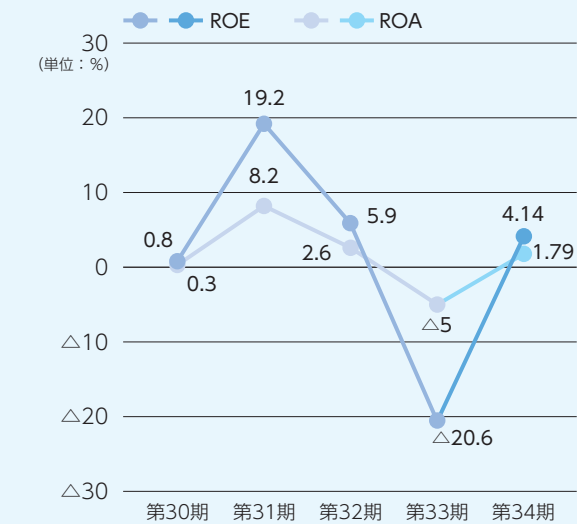
1株当たり当期純利益



総資産／株主資本



ROE (自己資本当期純利益率) / ROA (総資産経常利益率)



代表取締役社長 山村 章

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。  
ここに第34期決算報告をお届けするにあたりご挨拶申し上げます。

当社グループは、エレクトロニクス産業に限らず、ものづくりにおける要素技術を拡充し、高品質の製品を国際競争力のある価格で世界に送り出すグローバル製造業をめざしております。企業活動のあらゆる面で環境保全活動を積極的に推進すると共に、株主の皆さまにとって「成長する楽しみが持てる企業」であり続けることに努めております。

当社グループは、将来の事業展開に備え、内部留保の充実により企業体質の強化を図りながら、株主の皆さまに対する安定的な利益還元を継続して行うことを経営の重要施策の一つと考えております。

このような考え方にに基づき、当期の期末配当金を1株当たり1円増額し、普通配当6円（年間）といたしました。

また、次期の配当金は1株当たり普通配当8円（年間）と増額し、利益還元を行う予定です。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年6月

## 他社にはない技術力で、 新たな事業フィールドを開拓



代表取締役副社長 賀 賢漢

### 高度な技術力という原点に立ち返り “選択と集中”で黒字転換へ

私どもフェローテックは主に「半導体」「太陽光発電」関連製品に使用する製造装置やその機能部品、消耗品、そして自動車や情報通信機器などに使用される「電子デバイス」の分野で事業を展開してまいりました。特に、半導体を製造する際に必要な高度な密封空間を作るために欠かせない「真空シール」と呼ばれる部品は、世界で約6割もの市場シェアを誇っております。

当社の製品は株主の皆さまの目に留まる最終製品ではありませんが、しかしその一方で、当社の極



真空シール

めて高度な技術力は、日本のみならず、アメリカや中国など世界のトップクラスの半導体メーカーによる製造や開発に大きく寄与しているのです。

2012年、太陽光発電市場の需要の落ち込みなどをを受けて当社は赤字に転落し、厳しい経営状態を強いられました。この状況を打開すべく同年11月から、当社では大規模な事業構造改革に着手し、現在も推進中です。

この取り組みの中で、改めてフェローテックは技術の会社であることに思い至り、当社にとって最大のコアコンピタンスである技術力を活かした既存のビジネスをさらに伸ばすとともに、採算性の観点からすべての事業を厳しく峻別し、不採算分野からは撤退するなど、いわゆる“選択と集中”

による経営の見直しを図りました。その結果、2014年3月期は黒字転換を果たし、現在は次なる目標へ向けて事業に邁進しております。

### 優位性を活かした製品分野で 中国市場をめざす半導体関連事業

半導体関連事業では、日本やアメリカの大手装置メーカーなどを相手に、主に真空装置やロボット向けの「真空シール」の製造・供給に注力し、事業を拡大させています。また、半導体の製造に必要な「セラミックス」「石英」素材の製品、集積回路の基板となる「シリコンウエーハ」やその材料となる「シリコン単結晶」など、量産が求められる消耗品の製造・供給にも力を入れ、業績を伸ばしました。

現在、当社では既存の市場である日本やアメリカの他に、中国、台湾、韓国といったアジアの市場の開拓にも力を入れています。中でも、半導体のシリコン結晶の製造に不可欠な「石英坩堝」を量産できる企業がほぼ存在しない中国では、当社の優位性を活かした半導体消耗品関連分野で積極果敢に進出していきたくと考えています。



石英坩堝

### 失敗・逆境から教訓を学び、 黒字化を目前にした太陽光発電関連事業

2011年まで非常に好調だった太陽光発電関連事業は、2012年から市場環境が大きく低迷し、厳しい状況を余儀なくされました。その結果、株主・投資家の皆さまにもご迷惑をおかけしてしまいました。

しかし、太陽光発電は社会的要請の高い再生可能エネルギーでもあり、決して先行きの暗いビジネスではありません。

実際、当社でもOEM（受託製造）のインゴットの供給数も増加しており、今後、特に注力していきたいと考えているのが「N型単結晶ウエーハ」の製造・供給です。

太陽電池に使われる部材であるシリコンウエーハには単結晶と多結晶があり、太陽光の変換効率が高い単結晶ウエーハは、戸建ての屋根など限られたスペースでの発電によく用いられています。

その中でも、従来のP型ではなく、より変換効率の良いN型に集中しています。当社はN型単結晶のウエーハを量産できる世界でも限られた企業であり、この優位性を活かしながら今後は中国を始め、世界



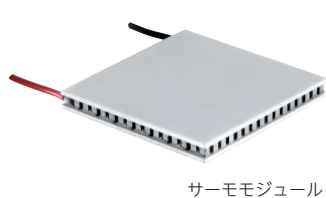
単結晶インゴット

の市場に進出していきたいと考えております。

2012年に苦しい状況に直面した際、私どもは「誰にでもできるビジネスは長くは続かない」ということを学び、『資金・技術・市場・ブランド力』がすべて揃っていない事業は成功しないと痛感しました。当社にはすでに「技術」はありますが、それ以外の条件を満たす分野を見極め、より盤石なビジネスを進めていくべきだと考えています。このように、失敗や逆境からも学び、そこで得られた教訓をさらに成長のための礎としていくこともまた、私どもフェローテックの強みなのです。

**培った技術やノウハウを活かして  
「医療」「航空」など新たなフィールドへ**

フェローテックでは、長年培った技術やノウハウを活かし、新しい分野への挑戦も始まっています。「医療」「航空」「水を含めた食品」といった領域は今後ますます成長が期待される分野ですが、「半導体関連」「電子デバイス関連」「太陽電池関連」の事業を展開する当社でも参入できると考えたのが「医療分野」でした。



サーモモジュール

当社は医療機器関連分野に参入し、DNAを増殖させるためのPCR装置にサーモモジュールを供給しています。鎖状のDNAをほどく作業を行う際には非常に精密な温度管理が必要になりますが、ここに当社の技術が発揮されているのです。

このPCR用サーモモジュールは、現在では世界シェア90%の供給率を実現し、メーカーからも高い評価を得ていますが、これに加えて当社では、CTスキャンやMRIの機器に必要な回転機構の製造を開始しています。

こうしたものは、どの企業でもつくれる製品ではなく、さまざまな制約のある非常に専門的で難易度の高い分野ですが、高い技術力があれば参入の余地は残されています。当社は取引において信用材料にもなる医療機器の品質保証の国際基準「ISO13485」の取得もめざしながら、この領域のさらなる成長を追求しています。

また、「航空関連分野」に目を向けると、真空シールやサーモモジュール、セラミックス製品など、当社製品を使用できる部分が多くあります。今後



セラミックス製品

はさらに情報収集に努めながら、どのような提案ができるのか綿密に分析し、会社の利益となりうるものを見極めながら果敢にアプローチしていきたいと考えています。そして、最終的には当社の事業セグメントの一つとして確立できるよう、意欲的に取り組んでいく考えです。

**確かな基盤をもつ“100年企業”をめざして  
誠実な経営と広がりのある事業展開を追求**

長年培った技術やノウハウを応用できる「新しい市場」を探して事業を広げていくのが私どものスタイルです。既存の事業を伸ばす「縦の展開」と、既存の技術を新しい分野で活かす「横の展開」を組み合わせながら、さらなる成長を追求してまいります。

そんな当社にとって、「100年企業」になることは、大きな経営テーマの一つです。

その一つとして、太陽電池関連事業の黒字化を目的に技術・市場・ブランド力を有する中国で、太陽光発電所の事業化を進めていきます。

中国でも2013年9月から固定買取制度が始まりました。2014年の政府目標は14ギガワットと発表され、その内8ギガワットを分散型に指定しています。いわゆる大型のメガソーラー発電所ではなく、

工場や公共施設、中小規模のソーラー発電所のことです。ここに当社のN型単結晶ウエーハをパネル化し、太陽光発電所を運営します。その際、パネル化や周辺機器などは外注を利用し、費用面でも全額リースで賄いリスクを分散します。

確実に利益が出せる上、太陽光発電所運営のノウハウや取引業者との提携も望めるほか、当社からOEMを希望する顧客も見込めます。

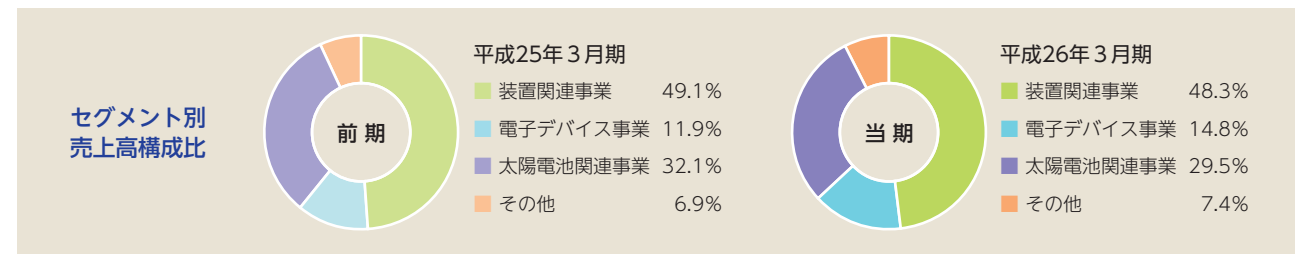
**株主のみなさまへ**

利益を出し株主・投資家の皆さまに還元していくことももちろん大切です。また、堅実で健全な経営によって会社を長期的に存続させていくことも重要な使命といえるでしょう。そのためにも、無借金経営をめざす意気込みで財務体質の改善や財務基盤の強化に尽力してまいります。

当社ではこれからも誠実な経営と広がりのある事業展開を追求してまいります。株主・投資家の皆さまに「フェローテックの株主でよかった」と思っただけのよう、さらなる企業努力を重ねてまいり所存ですので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

当社は、製品用途の類似性と販売先業種により区分し、「装置関連事業」「電子デバイス事業」及び「太陽電池関連事業」の3つの事業を報告セグメントとしております。

装置関連事業	電子デバイス事業	太陽電池関連事業
売上高 <b>216</b> 億円	売上高 <b>66</b> 億円	売上高 <b>132</b> 億円
営業利益 <b>5</b> 億円	営業利益 <b>7</b> 億円	営業利益 <b>△3</b> 億円
<p>石英製品、セラミックス製品は、スマートフォン用半導体・メモリーの設備稼働用途に需要はありましたが、PC用メモリーの販売不振から総じて低迷し、年央まで厳しい状況となり、年後半に向けて急速に需要が回復に転じました。真空シールは、半導体等の設備投資需要が年後半から回復に転じたため、サブアセンブリや受託製造の受注が増加しました。シリコンウエーハ加工は、安定的な小口径ウエーハの需要があり比較的底堅く推移しました。</p>	<p>サーモモジュールは、世界の自動車販売が堅調に推移しており、温調シートが搭載される高級車の販売も回復いたしました。民生機器に使用されるサーモモジュールは、消費税増税を前にして民生需要が旺盛となり、検査装置、バイオ関連機器も総じて底堅く推移し、売上高は、計画を上回りました。磁性流体は、車載用スピーカーを始め、4Kテレビのスピーカーや釣具用リールなど幅広く採用され堅調に推移しました。</p>	<p>太陽電池は、全世界で導入量が前年を上回ったものの、太陽電池パネルの価格が下落し、厳しい市場環境が続きました。シリコン結晶製造装置等の販売が振るわず、消耗品である石英坩堝も総じて低調な売上高となりました。太陽電池用シリコン製品の結晶工程を、中国西北部にある寧夏回族自治区銀川工場へ移管させコスト削減を徹底し、安定したOEM受注をめざした結果、売上高は堅調に推移しました。</p>
<p><b>主な製品</b> 真空シール／石英製品／セラミックス製品／シリコンウエーハ加工など</p>  <p>石英製品</p>	<p><b>主な製品</b> サーモモジュール／磁性流体など</p>  <p>磁性流体</p>	<p><b>主な製品</b> シリコン結晶製造装置／シリコン製品／石英坩堝／角槽など</p>  <p>太陽電池</p>



※記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。各セグメントの売上高は、外部顧客に対する数値を記載しております。

連結貸借対照表 (単位：百万円)

科目	当期 平成26年3月31日現在	前期 平成25年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	39,835	34,271
固定資産	34,887	32,072
有形固定資産	29,041	24,914
無形固定資産	1,613	1,683
投資その他の資産	4,232	5,473
資産合計	74,723	66,343
<b>負債の部</b>		
流動負債	28,522	27,243
固定負債	8,140	8,660
負債合計	36,662	35,904
<b>純資産の部</b>		
株主資本	30,604	29,366
その他の包括利益累計額	6,884	399
少数株主持分	571	673
純資産合計	38,060	30,439
負債純資産合計	74,723	66,343

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結包括利益計算書 (単位：百万円)

科目	当期 平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで	前期 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
少数株主損益調整前当期純利益 (△は損失)	1,397	△6,750
その他の包括利益	6,650	3,380
その他有価証券評価差額金	△123	112
為替換算調整勘定	6,717	3,232
持分法適用会社に対する持分相当額	57	36
包括利益 (内訳)	8,047	△3,369
親会社株主に係る包括利益	7,935	△3,209
少数株主に係る包括利益	112	△159

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書 (単位：百万円)

科目	当期 平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで	前期 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
売上高	44,745	38,424
売上原価	33,925	31,448
売上総利益	10,820	6,976
販売費及び一般管理費	10,021	10,584
営業利益 (△は損失)	798	△3,608
営業外収益	1,924	1,155
営業外費用	1,460	1,012
経常利益 (△は損失)	1,262	△3,465
特別利益	1,378	1,637
特別損失	573	4,330
税金等調整前当期純利益 (△は損失)	2,067	△6,158
法人税等	669	591
少数株主損益調整前当期純利益 (△は損失)	1,397	△6,750
少数株主利益 (△は損失)	5	△217
当期純利益 (△は損失)	1,391	△6,532

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)

科目	当期 平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで	前期 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,927	1,584
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,813	△401
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,861	△3,991
現金及び現金同等物に係る換算差額	924	620
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	177	△2,187
現金及び現金同等物の期首残高	7,373	9,560
現金及び現金同等物の期末残高	7,550	7,373

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 株式の状況

発行可能株式総数	67,000,000株
発行済株式総数	30,903,702株
株主数	18,575名

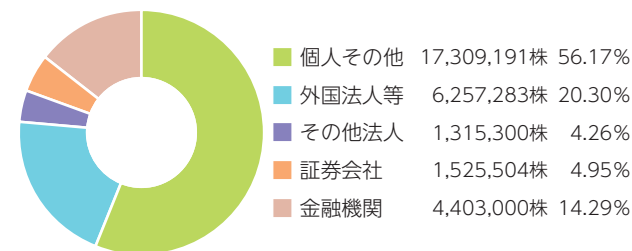
### 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	887,700	2.88
野村信託銀行株式会社(投信口)	860,800	2.79
山村 章	815,800	2.64
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	772,100	2.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	544,700	1.76
THE BANK OF NEW YORK, NON-TREATY JASDEC ACCOUNT	491,560	1.59
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505025	441,700	1.43
JP MORGAN CHASE BANK 380055	434,800	1.41
株式会社SBI証券	426,200	1.38
株式会社三菱東京UFJ銀行	420,000	1.36

(注) 1.当社は、自己株式93,424株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
2.表示単位未満を切り捨てて表示しております。

### 所有者別株式分布状況

株式数 30,810,278株



(注) 自己株式93,424株は上記グラフの株式数に含まれていません。

### 会社概要

商号	株式会社フェローテック
(英文表記)	Ferrotec Corporation
設立	昭和55年9月27日
資本金	132億134万6,010円
株式公開	東京証券取引所 JASDAQ (平成8年10月18日) (証券コード：6890)
決算期	3月31日
従業員数	169名

### 事業所

本社	〒103-0027 東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル5階
関西営業所	〒564-0051 大阪府吹田市豊津町11-34 第10マイダビル1階
千葉工場	〒289-2131 千葉県匝瑳市みどり平1-4
会津工場	〒965-0102 福島県会津若松市真宮新町北2-53

### 役員

(平成26年6月26日現在)

取締役	監査役
代表取締役社長 山村 章	常勤社外監査役 宮田 賢一
代表取締役副社長 山村 丈	社外監査役 井上 朗
代表取締役副社長 賀 賢漢	社外監査役 福森 久美
取締役 小松 輝寿	
取締役 鈴木 孝則	
取締役 若木 啓男	
社外取締役 島田 忠男	
社外取締役 片山 茂雄	
社外取締役 中村 久三	

### グローバルネットワーク

国内	株式会社フェローテックセラミックス(東京)
海外	杭州大和熱磁電子有限公司(中国杭州市)
	杭州和源精密工具有限公司(中国杭州市)
	杭州先進石英材料有限公司(中国杭州市)
	杭州晶鑫科技有限公司(中国杭州市)
	上海申和熱磁電子有限公司(中国上海市)
	上海漢虹精密機械有限公司(中国上海市)
	上海漢虹国際貿易有限公司(中国上海市)
	寧夏銀和新能源科技有限公司(中国銀川市)
	寧夏富樂徳石英材料有限公司(中国銀川市)
	富樂徳科技發展(天津)有限公司(中国天津市)
	香港漢虹新能源裝備集團有限公司(香港)
	台湾飛羅得股份有限公司(台湾)
	Ferrotec Korea Corporation(韓国)
	FERROTEC CORPORATION SINGAPORE PTE LTD(シンガポール)
	Ferrotec(USA)Corporation(アメリカ)
	Ferrotec GmbH(ドイツ)
	Ferrotec Ltd.(イギリス)
	Ferrotec S.A.(スペイン)
	Ferrotec S.R.L.(イタリア)
	Ferrotec SARL(フランス)
	Ferrotec Nord Corporation(ロシア)

### フェローテックグループ会社のご紹介

#### 台湾飛羅得股份有限公司

急速な成長を遂げた台湾エレクトロニクス産業への拡販を目的に2006年、台湾・新竹市に台湾飛羅得股份有限公司 (Ferrotec Taiwan Co, Ltd.) を設立しました。

台湾飛羅得股份有限公司は、半導体製造装置の基幹部品である真空シールやその製造工程で使用する消耗品の石英製品、太陽電池向けシリコンインゴットの製造工程で不可欠な消耗品の石英坩堝の販売を展開しています。また、一部の製品は現地メンテナンスも手掛けており、アフターサービス体制も強化いたしております。



#### 会社概要

商号	台湾飛羅得股份有限公司 (英語表記：Ferrotec Taiwan Co, Ltd.)
所在地	台湾新竹市東區埔頂路25號6樓之2
設立	2006年
資本金	10,000千新台幣ドル
従業員数	10名